

# 道徳学習指導案

日 時 平成28年6月2日(木)公開授業Ⅰ  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
2年B組(男子19名 女子20名 計39名)  
会 場 集会室  
授業者 澤 口 麻 里

## 1 主題名 先人に学ぶ【4－(8)郷土愛】

## 2 主題設定の理由

### (1) 生徒観

東日本大震災から5年が経つ。東日本大震災は、多くの被害・犠牲と引換に私たちにいくつもの教訓を残した。大震災を契機として、多くの人たちが改めて自分の生き方、他者との関わり、地域との関わりを考えさせられた。しかし、同じ岩手であっても、内陸部にいて現地を知らない生徒たちは、いまいち実感が湧かないようであった。学校の実態として、学区がなく他の地域から入学してくることも影響しているためか、地域貢献の意識は、他校の生徒に比べて低いように感じる。また、進路意識が高く、約8割の生徒(32名)が卒業後は岩手を離れたいと考えている。

さらに、本校の総合的な学習の時間は、「生徒自らが課題を見つけ、その課題を追求していく中で、自己の生き方を考える」ことを通して、めざす生徒像「よく考え 誠をもって 働く人間」に迫ることを目的としている。第2学年はテーマを「他者から学ぶ」とし、仲間と共に一つの視点から他者の生き方に触れ、学ぶことを通して、自己の世界を広げ、さらには「人としての生き方」について、自らの切り口で追求していく。

道徳の授業、そして総合的な学習の時間をリンクし、地域へ生徒たちを関与させ、地域とのつながりを深めさせ、心を通わせる経験を蓄積させることによって、生徒たちが今いる地域が故郷、郷土に変容していき、同時に郷土への愛着心と自己アイデンティティーが形成できるのではないかと考える。

### (2) 価値について

学習指導要領において、内容項目4－(8)は、「地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。」としている。

生徒たちにとって、自分を取り巻く環境はあまりにも日常的すぎて、平素は郷土について考える機会がない。また、今日では、都市化が進む一方で過疎化も進んでおり、郷土に対する愛着や郷土意識が希薄になっている傾向が見られる。しかし、私たちが心豊かに暮らすためにも、地域社会の発展は不可欠である。また、社会に尽くした先人や高齢者などの先達のお陰で、今のこの暮らしを営むことができているのだと認識することにより、尊敬の念や感謝の気持ちを深め、今後は、自分たちの力で、地域に住む人々とともに、地域社会をよりよいものに発展させていこうとする自覚をもつことが必要になってくる。

指導に当たっては、単なる知識で終わったり、偉大過ぎて共感の対象にもならなかったりしないように、読み物資料や発問、全体交流での教師側のコーディネートを工夫していく。また、「豪雪、貧困、多病・多死」という三悪に苦しめられていた沢内村に赴任した加藤邦夫医師の「沢内村では楽しかった。」「あの人がいなければ沢内に行かなかった。」というインタビュー映像を通して、生徒たちが故郷について新たな視点で考える機会としたい。

### (3) 学びの本質との関わり

本校の道德教育の研究主題は、「主体的に判断し適切に行動する意欲・態度を持ち共に豊かに生きる生徒の育成」である。道德の時間の学びの多くは自分の生活経験の反省（自己内省）から始まると言える。資料に登場する人物の言動に共感したり批判したりすることにより、自分の言動を反省することができ、「道德的実践力」を育むことができるのである。したがって、学習過程の中で、その時点での自分の中にある道德的価値観に基づいた考え方や、自己内省のもとに行われる問題の意識化は、道德的実践力の向上にとって大切な要素となる。

また、道德の時間では、自分自身への内省的な働きかけとしての「自己内対話」や、自分の考えの根拠を明らかにして話したり、他者の考えを聞くことによって自分の考えを深めたりする「他者との対話」が重要な学習活動となる。そして、それらを通して、現在の自分の価値観と多様な価値観とを比較しながら、深まり・広がりを経て起こる新たな価値観の再構築が「道德的実践力」につながると考える。このように、「自己内対話」や「他者との対話」を通して、自身の道德的価値観の意識化や言語化することが道德の時間の学びの本質であると考えられる。

道德の時間における学びの本質に迫るために以下の3点に重点を置くこととした。

- ①道德的価値を内面化する、対話を重視した学習過程の工夫  
(価値観の意識化⇒多様な価値観の認知⇒価値観の再構築)
- ②道德的実践力育成の土台となるカリキュラムの充実と道德資料の開発
- ③指導方法の工夫

## 3 資料について

(1) 資料名 【自作資料】『故郷と生きる』

### (2) 資料のあらすじ

行脚と対話を重視し、豪雪、貧困、多病・多死の三悪追放に命を懸けた沢内村村長、深澤晟雄について扱う。輝かしいキャリアを積んでいた彼がなぜ故郷で生きることを決意し、故郷に尽くしたのか。故郷と生きるとはどのようなことなのかを自作資料、加藤邦夫医師のインタビューを通して考えさせる。

## 4 本時の展開

### (1) ねらい

郷土に対する理解と認識を深めるとともに、自己の立場を自覚し、協力して郷土の発展に尽くそうとする態度を養う。

### (2) 本時の指導の構想

導入では、事前アンケート（将来、どこに住みたいかとその理由）の結果を提示する。その後、約60年前の沢内村の状況（豪雪、貧困、多病・多死）を確認して資料につなげる。

展開前半では、まず資料を範読する。深澤の行動や言葉から、深澤と村人が故郷に抱いている思い、深澤が村人に抱いている思いをとらえさせ、内容を確認する。そのうえで、「村を出た深澤についてどう思うか。」という問いを投げかけ、共感させる。ここで建前と本音を出させることで、その後の中心発問につなげる。

「(海外経験も長く、実業家として成功していた。村に戻っても職があるわけではない。輝かしい暮らしを捨ててまで村に戻ることを決意し、)なぜ、村で生きることを決意したのか。」を個人で考えさせる。

展開後半では、個人で考えたものを全体交流する。深澤の状況を振り返りながら教師がコーディネートしていく。「そこまで出来たのはなぜなのか。」についてもグループで考えさせる。

終末では、加藤邦夫医師のインタビュー映像を見せた後に、授業を振り返って考えたことを書かせる。数名の生徒に感想発表をさせて本時のまとめとする。

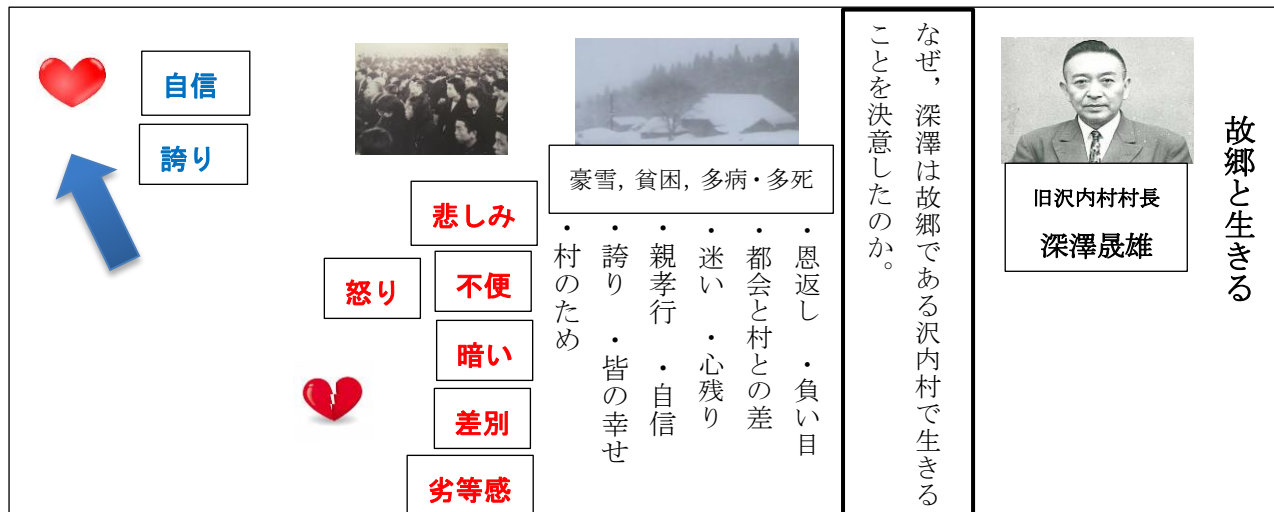
### (3) 本時の展開

段階	生徒の学習活動, 主な発問	予想される生徒の意識	指導上の留意点
導入 4分	1 アンケート結果を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡…生まれ育った場所で貢献したい。</li> <li>・東京…夢実現のための環境が整っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メタ認知</li> <li>・ねらいとする価値で導入し、内容に迫る。</li> </ul>
	2 約60年前の沢内村の現状を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沢内村はどんな場所か。</li> </ul>	
展開 34分	3 資料を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深澤の行動, 言葉に注目する。</li> <li>・深澤と村人が故郷に抱いている思い。</li> <li>・深澤が村人に抱いている思い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が資料を範読する。</li> <li>・共感させる。</li> <li>■学習シート記入</li> <li>・建前を高くして本音との落差をつける。</li> <li>評価 (道徳的心情)</li> </ul>
	4 資料について考える。 ○故郷を出ていった深澤をどう思うか。	<p>&lt;建前と本音&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沢内村から奨学金ももらったのに、医者にもならず、村のために何もしないのはひどい。</li> <li>・自分の夢を叶えるために私も故郷を出たい。</li> </ul>	
展開 34分	5 資料について考え, 話し合う。 ◎なぜ, 深澤は故郷である沢内村で生きることを決意したのか。 ○そこまで出来たのはなぜだろうか。	<p>&lt;深澤自身, 故郷, 村人への想い&gt;</p> <p>&lt;決して肯定的な想いだけではない&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都会と村との差</li> <li>・恩返し</li> <li>・親孝行</li> <li>・迷い</li> <li>・心残り</li> <li>・負い目</li> <li>・村が好き</li> <li>・何かしないと何も変わらない。</li> <li>・自分だけが幸せなことに疑問を持った。</li> <li>・故郷に対して誇りや自信を持ってほしい。</li> <li>・皆の幸せの中に自分の幸せがある。</li> <li>・今までの経験を生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学習シート記入</li> <li>●自己内対話</li> <li>・実業家として成功しており, 故郷に戻った時は一村民に過ぎなかったことを確認する。</li> <li>評価 (道徳的心情)</li> <li>●他者との対話</li> <li>*学びの本質</li> </ul>
	6 インタビュー映像を見る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで故郷に恩返ししたいと考えたことはなかった。しかし過去, 今, 未来の自分があるのは故郷があるからなのだと思った。</li> </ul>	
終末 12分	7 考えたことを記述し, 発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに住もうとも「人のために」を忘れずそこに自信や誇りを持てる生き方をしたい。</li> <li>・グラフを見れば, 深澤村長が村を発展させるために努力していたことが伝わる。故郷のために生きるのも良い生き方だと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■学習シート記入</li> <li>●自己内省</li> <li>評価 (道徳的実践意欲・態度) → 故郷について自分の考えを再構築し, 今後どのように関わろうとしているのかを記述しているか。</li> </ul>

## 5 評価

- (1) 故郷を離れたのにも関わらず、故郷で生きることを決意した深澤について自分と照らしあわせながら考え、自分の感情を素直に表現している。[道徳的心情]
- (2) 故郷について自分の考えを再構築し、今後どのように故郷と関わろうとしているのかを具体的に記述している。[道徳的実践意欲・態度]

## 6 板書計画



## 7 参考文献, 引用文献

- (1) 文部科学省, 『中学校学習指導要領解説 道徳編』
- (2) 文部科学省, 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』
- (3) 深澤晟雄資料館提供資料
- (4) 及川和男 (2012), 『村長ありきー沢内村 深沢晟雄の生涯』, れんが書房新社, p. 22 , p. 29, p. 32, p. 83, p. 126, p. 224, p. 225
- (5) 及川和男 (2010), 『命見つめ 心起こし「生命村長」深沢晟雄スタディー』, れんが書房新社
- (6) 及川和男 (2001), 『「あきらめ」を「希望」に変えた男』, 日経ビジネス人文庫
- (7) 山崎憲治／本田敏秋／山崎友子編 (2014), 『3. 11 後の持続可能な社会をつくる実践学』, 明石書店, p. 86, p. 264
- (8) 菊地武雄 (2015), 『自分たちで生命を守った村』, 岩波新書
- (9) 太田祖電／増田進／田中トシ／上坪陽 (2010), 『沢内村奮戦記 住民の生命を守る村』, あけび書房
- (10) 安藤豊 (2011. 9), 『現代教育科学 提言・「郷土愛」を東日本大震災で見直す』, p. 13
- (11) NHK (2007. 9. 19), その時歴史が動いた『赤ちゃんを死なせない～乳児死亡率ゼロ・ある村の記録～』
- (12) IBC 岩手放送 (1978), 『岩手に生きる #24～いのち燃え尽きるとも』
- (13) IBC 岩手放送 (1985), 『ドキュメントいわて村立沢内病院』
- (14) 大峰順二作・演出, 『沢内中学校演劇教室用台本いのち』
- (15) インタビュー資料
  - ① 佐々木孝道氏 (西和賀町議会議員, NPO 法人深澤晟雄の会理事長)
  - ② 増田進氏 (緑陰診療所所長, 第7代沢内病院長)
  - ③ 及川和男氏 (日本文藝家協会・日本児童文学者協会・日本ペンクラブ会員)
  - ④ 加藤邦夫氏 (医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院勤務, 第6代沢内病院長)